

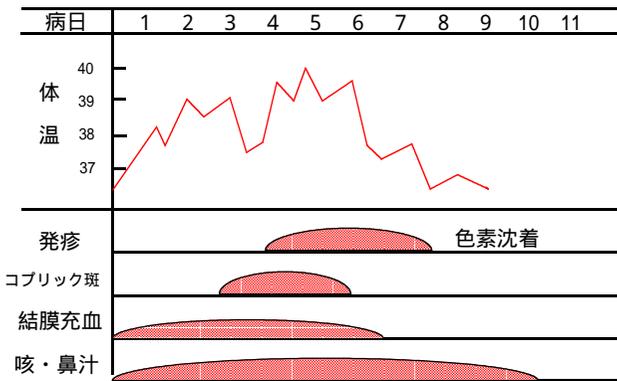
# はしか（麻疹）

## はしかとは？

はしかウイルスが原因ですが、感染力の強いウイルスです。生後6か月以内の赤ちゃんは、お母さんの免疫があるのでほとんどかかりません。1才前後にかかることが多く、今でも命とりになる怖い病気です。潜伏期は10日～2週間です。

## 症状

初めのうちは鼻水やくしゃみ、咳など、かぜと同じ症状が出ます。この時に目やにが出るのが特徴です。同時に38～39の高い熱が出て、食欲がなくなってきます。3～4日目に一度熱が下がり、再び高熱が出た時に発疹が出始めます。発疹は赤いブツブツで、顔から全身に広がり、くっつき合ってきて来ます。目やにや咳も激しくなり、高熱もその後3～4日続きます。症状は1週間～10日くらいで治まりますが、発疹は茶色っぽいしみようになって残ります。



## 診断

熱が出て2～3日目頃に、口の中にコプリック斑という白いブツブツが出ます。これで「はしか」と診断できますが、最近は症状が軽かったり、コプリック斑の出ない「はしか」も増えており、診断が困難な場合もあります。

## 合併症

気管支炎や肺炎を起こすことがしばしばあります。また、まれに脳炎を起こすこともあります。頻回に医師の診察を受けたほうがよいでしょう。

## 治療

特別な治療はなく対症療法が主になりますが、症状の緩和と合併症予防のため薬を服用します。脱水症になりやすく合併症も多いので、点滴注射をすることが多くなります。入院治療の必要となることもしばしばあります。

## 看護

熱が下がっても医師の許可があるまでは、外出、登園（登校）禁止です。入浴も許可があるまで避けて下さい。

食欲がなくなり高熱が続くので、脱水症になりやすいですから、水分の補給に心がけましょう。

高熱は解熱剤を使ってもあまり下がらないので、薄着にしたり、氷枕で冷やしたり、着替えを頻回にしたりといった熱に対する看護が大切です。

1才になったらなるべく早く麻疹ワクチンを接種するようにしましょう。

周囲で発症した場合には、1才未満でもワクチン接種が望まれます。また、年長児や成人でも必要があれば、ワクチン接種をしましょう。

